

## テイル用法の一研究

### —中国人日本語学習者の習得状況を巡って—

張 瑞深

#### 【キーワード】

テイル、進行中、結果残存、繰り返し、経験・記録

#### 【要旨】

本稿はテイルの四つの用法について、学習者の習得状況を明らかにした。

まずはテイルに関する四つの用法が学習者は習得しにくい、という問題を提出し、テイルの四つの用法をまとめた。

次にこれまでの様々なテイルに関する先行研究を整理した。

そして、先行研究で述べられているテイルに関する誤用とテイルの中国語の対応を検討したうえで、学習者にとって、結果残存と経験・記録の用法が特に習得しにくい、という仮説を立てた。

その仮説を検証するために、アンケート調査を行った。調査対象は中国人日本語学習者 20 人であり、テイル用法が正しいかどうかのチェックは母語話者三人にやってもらった。最終の結果は以下のようにまとめられる。

中国人日本語学習者の結果をもとにした習得の難易度による分類：

- ①進行中—習得率が高い
- ②繰り返し—習得率は高くないが、正答率が高い
- ③結果残存と経験・記録—習得率が低い

つまり、中国人日本語学習者は、母語干渉で、テイル用法の結果残存と経験・記録がもっとも習得しにくい。

#### 1. はじめに

日中両言語の対照研究において、テイルについての研究は多くみられる。テイルは中国人日本語学習者にとって習得しにくいと言われている。筆者が行ったアンケート調査の結果でも分かるが、留学生は結果残存の「テイル」(今は結婚している)や経験・記録の「テイル」(夏目漱石は若いころイギリスに留学している)に関する誤用が多くみられる。日本語の「テイル」のその二つの用法と対応する中国語の文法項目は完了形のため、母語干渉で誤用が頻出する。本研究はテイルの四つの用法、つまり「進行中」「結果残存」

「繰り返し」「経験・記録」を中心に、それぞれの使用状況をアンケートの形式で調査し、中国人日本語学習者の習得現状を解明した。中国人日本語学習者にとって、テイルの「結果残存」と「経験・記録」は習得しにくい、という結論にたどり着いた。その他、繰り返し用法においても学習者の理解に問題があるとわかった。

## 2. 問題の所在

金田一（1954：41-46）では、状態相のアスペクトを四つの種類に分類している。それは已然態、進行態（反復進行態）、将然態、単純状態態である。その後、いろいろな修正が行われ、吉川（1976：165-199）は「動作・作用の継続」「動作・作用の結果の状態」「単なる状態」「経験」と「くりかえし」、藤井（1976：110-114）は「動作の進行」「持続」「結果の残存」「経験」「単純状態」「反復」「存在」に分類している。

そのうち、「単なる状態」は「結果の状態」（本稿でいう結果残存）に極めて近いと吉川（1976：309）は述べている。二つの用法は近いので、本研究では単なる状態を結果残存に含め、四つの用法にまとめ、以下のように整理した。説明と例文は藤井（1976）と庵（2001）から引用したものである。

- (1a) 進行中（動作がある時間内継続すること、または現在継続中であること。例：今読んでいる）
- (1b) 結果残存（過去の動作・作用の結果が現在に残っている。例：今は結婚している）
- (1c) 繰り返し（瞬間の動作の繰り返しが続くこと。例：最近、有名人がどんどん死んでいる）
- (1d) 経験・記録（観察時以前の出来事を何らかの証拠に基づいて述べたり、主語の経歴として述べたりする。例：夏目漱石は若いころイギリスに留学している）

そして、それぞれの関係を筆者によってまとめると、表1のようになる。

	基本用法	派生用法
動作の繰り返し	進行中	繰り返し
動作の結果の継続	結果残存	経験・記録

表1 テイル用法のまとめ

菅谷（2002）、許（2005）などの先行研究では、すでに「進行中」より、「結果残存」のほうが学習者にとって習得しにくいという結果が証明されている。本稿の分類によると、「結果残存」と「経験・記録」は同じ動作の結果の継続を表す。したがって、習得の難易度も似ていると推測する。つまり、「結果残存」と「経験・記録」が特に学習者にとって理解しにくい、ということである。

そこで本稿では、「結果残存」と「経験・記録」だけではなく、テイルの四つの用法を中心に、それぞれの使用状況をアンケートの形式で調査し、中国人日本語学習者の習得現状を解明していく。

### 3. 先行研究

今までの先行研究では、テイルの基本的意味、つまり進行中と結果残存を中心に、活発に議論している。文法テスト：許（2005）、小山（2004）、インタビュー：許（2005）、作文データ：簡・中村（2010）などの調査が行われているが、概ね「進行中」の用法より「結果残存」用法のほうが習得しにくいことが報告されている。そこで本稿では、テイルの派生的用法も含めて全体的に考察していきたいと思う。

#### 3-1 進行中

金田一（1954：41）「進行態：ある動作・作用がそれ以前から始まっており、その時も継続中であり、さらにそれが後にまで持ち越されるべきことを表す。」

吉川（1976：165）「「動作」とは人又は動物についてその動きをいい、作用とは人又は動物以外のものについての動きを言う。「継続」とは動きがその過程の途中にあることを言う。ある動きが始まって、まだ終わらない状態にあることを言うのである。」

藤井（1976：110）「動作がある時間内継続すること、または現在継続中であることを表す。」

庵（2001）「進行中」というのは「ある観察時において動作または出来事が続いているということを表す。やや厳密に言えば、観察時以前からその動作または出来事が始まり、観察時以降もそれが一定の間続くということを表す。」

#### 3-2 結果残存

金田一（1954：39）「既然態：以前起こった動作・作用の結果がまだ存続している。」

吉川（1976：169）「「結果の状態」とは動作・作用が行われて、ある結果が現れた場合、その結果に注目してその（静的）状態を表すものである。」

藤井（1976：111）「過去の動作・作用の結果が現在に残っている。」

庵（2001）「「結果残存」は観察時以前に起こった出来事の結果が観察時にも存在していることを表す。」

#### 3-3 繰り返し

金田一（1954：42）「反復進行態：ある動作・作用が繰り返し行われていることを表す。」

吉川（1976：193-194）「いくつかのある動作・作用が適当なインターバルで時間の経過に沿って並んだもの、これを一つの過程とみなすことがこの「繰り返し」の意味を了解する前提になる；そして、動作・作用が、そうみなされた過程の途中にあることを示

すのが「くりかえし」だ。」

藤井（1976：113）「瞬間の動作の繰り返しが続くこと。」

庵（2001）「繰り返しは同一主体による動作・出来事が複数回存在する場合と、複数の主体による動作・出来事が存在する場合がある。」「しかし、寺村（1984）が指摘しているようにどちらの場合にも個々の動作・出来事の「点」が集まって「線」になるという点は共通しており、両者を区別する必要は特にない。」

### 3-4 経験・記録

金田一（1954）の研究では、特に経験・記録という概念はないが、已然態に含まれていると考える。

吉川（1976：192）「金田一博士が已然態と考え、藤井氏がそれから分けて「経験」としたように、この「経験」は、「結果の状態」からの派生と考えられる。」

藤井（1976：112）「過去の動作・作用を現在から眺めた。」

庵（2001：84）「記録というのは、観察時以前の出来事を何らかの証拠に基づいて述べたり、主語の経歴として述べたりする際に用いられる用法である。」

## 4. 誤用及び中国語との対応

### 4-1 誤用例

(2) しかし、実は文教大学で勉強した私が将来どのようなことになるのか全く未知数だ。

【→勉強している】

(3) 砂場で遊んだとき、きれいな愛ちゃんが風船を持ってきた。

【→遊んでいた/遊んでいる】

菅谷（1997：29）

(4) (今年の三月ごろに日本に来たばかりなので)日本の生活にまだ慣れません。

【→慣れていません】

(5) 駐車場へ行ったら、車はもうなくなった。

【→なくなっていた】

菅谷（1997：31）

さらに、「学習者が使用するテンス・アスペクト形式「ル、タ、テイル、テイタ」のうち、「ル、タ」だけで9割以上を占め、「テイル、テイタ」は使われること自体が少ない（山口 2013：37）。」からわかるように、学習者は「テイル、テイタ」を使う意識は弱い。だから「テイル」を使うべきところに「ル、タ」を使いやすいのであろう。

### 4-2 中国語との対応

許（2005：20）によると、「アスペクト表現は、日本語では、動詞の語尾変化や後接する補助動詞などの形式で表すのに対し、中国語では動詞の形を変化させず、動詞の接尾詞であるアスペクト助詞「着」「了」などによって表す。」

また、進行中と対応できるのは中国語の「在/正（在）」である。経験相については中

国語の「過」である。

ここで仮説を立てたいと思う。「中国人日本語学習者にとって、テイルの四つの用法の中で、母語干渉が原因で一番習得しにくいのは「結果残存」と「経験・記録」である。」この仮説を証明するために、具体的な状況をアンケート調査で解明していく。

## 5. アンケート調査について

### 5-1 アンケート調査

調査対象は母語話者 3 人と中国人日本語学習者 20 人である。若者を調査対象にする、言葉のバリエーションが多いと予想するため、若者言葉を避けるために、30 代から 40 代の母語話者を選んだ。学習者は N1 レベルの在日中国人を選んだ。

調査で使う文のうち、「進行中」「結果残存」「繰り返し」「経験・記録」はそれぞれ五つの文があり、スルの文、つまり「テイル」に関する文ではないものも 20 文混ぜている。調査は計 40 文で、2 つの動詞のうちの自然だと思う方に○をつけてもらう。両方とも自然だと思う場合は、両方に○をつけてもらった。

#### 【進行中】の設問：

2. ある日、私の家の裏側に（住む・住んでいる）「裏のおばあちゃん」が家に上げてくれた<sup>1</sup>。
11. お昼休みの時間だ。夫は今頃会社で弁当を（食べる・食べている）だろう。
12. ミラーさんは今電話を（かける・かけている）。
22. さあ、遅れるわ。校長先生が（待つ・待っている）んだから。
28. 砂場で（遊ぶ・遊んでいる）とき、きれいな愛ちゃんが風船を持ってきた。

#### 【結果残存】の設問：

3. そこにペンが（落ちた・落ちている）。
13. （猫の死体を発見して）猫が（死んだ・死んでいる）。
17. 急いで、会議は始まっているよ。
25. きちっと（しまった・しまっている）窓もあれば、開いたままのものもあります。
31. 家族の話によると、私の故郷の町は都市開発が急速に進んでいるようだ。次に帰国した時には、町はすっかり（変わった・変わっている）かもしれない。

#### 【繰り返し】の設問：

6. 家族に会いたいから毎日テレビ電話を（する・している）。
14. 日本の童話の父をしのぶ多くの人々が、今も（訪れる・訪れている）。

---

<sup>1</sup> この文は具体的な進行中用法ではないが、学習者は進行中だと理解してしまうため、ここでは拡張的な用法として混ぜておく。

20. 「どう、調子は？」

「うん、いいよ。毎朝ジョギングを（する・している）から。」

29. 近年日本では交通事故で年 1 万人ぐらいの人が（亡くなる・亡くなっている）。

35. 海の上には、昼となく夜となく、絶えず波が（立つ・立っている）。

【経験・記録】の設問：

7. この筆者は、要点をはっきりさせ、文章の組み立てを考えて（書いた・書いている）。

18. 夏目漱石は若いころイギリスに留学（した・している）。

19. 父は若いころたくさん（遊んだ・遊んでいる）。だから、若い者の行動に理解がある。

24. 山下教授をご紹介します。教授は古代史の権威で、これまでにすぐれた論文をたくさん（発表した・発表している）。

38. あの子とすでに（知り合った・知り合っている）。

### 3-2 母語話者と学習者の比較

【進行中】

母語話者も学習者もテイルを選んだ。その理由はわかりやすい。日本語の教科書では、テイルに関する文法項目のうち、基本用法として最初に導入されているのが進行中である。したがって、学習者にとって印象深いし、多く練習されている文法項目であるだろう。もう一つの理由は、進行中の場合、テイルに対応する中国語として「正在/在」が存在することである。つまり、母語干渉があまりないことである。

【結果残存】

母語話者はほぼテイルだけを選んだのに対して、学習者はタを選んだ回答が多かった。例文を中国語に翻訳する場合は全部「了」と訳せる。中国語の「了」は日本語のタと対応することが多く、しかも中国語の完了アスペクトは「了」で表す。中国人日本語学習者は、「了」と訳せるために母語に影響され、タを選んでしまったのだと考えられる。

【繰り返し】

母語話者は派生的用法「繰り返し」について、「両方とも使える」を選んだ回答が多く見られる。テイルとルを選んだ回答は、ほぼ同数であった。特に第 14 問は 10 対 10 で均等に分かれた。しかしその中で注目したいのは、母語話者と比べて、他の用法では「両方とも使える」を選んだ数がきわめて少なかった学習者が、繰り返しについては二つの設問でそれを選んだことである。

日本語教科書『みんなの日本語』には、テイルの繰り返し用法は載っているが、派生的用法なので、おろそかにされやすい。学習者の結果を見ると、母語話者と似ている傾

向がある。つまり、テイルを選んだ学習者も、ルを選んだ学習者もいる。しかし、だから学習者は繰り返し用法を完全に習得している、とは言えない。なぜかという、中国語の繰り返し表現は日本語と違うからである。中国語に翻訳すると分かるが、繰り返しの相当する部分は全部中国語では無標の形（動詞の原形）になる。したがって、中国人母語話者は、日本語で繰り返しを表す場合にも、無標（テイルを使わない）という傾向がある。

しかし日本語の教科書では、テイルの他の用法を教えるときに繰り返し用法も一緒に提示するのが普通である。これをきちんと習得した学習者は、繰り返しを表すときにテイルを使うのだらう。以上をまとめると、テイルを選んだ人は、日本語の視点から出発して判断したのである。一方、ルを選んだ学習者は、中国語からの母語干渉で、無標（テイルを使わない）の選択肢を選んだのであろう。そして、「両方とも使える」を選んだ学習者が、もっとも高い日本語レベルを持っている、と判断できる。

#### 【経験・記録】

母語話者は「テイル」を選んだ回答方が多かった。『みんなの日本語』で、最後に提示されるのが経験・記録である。派生的用法のうち、それは一番理解しにくいと思われる。学習者は、タを選んだ回答が多かった。中国語では、経験・記録に相当する部分は全部「过～了」と訳される。したがって、ここにも母語干渉があると判断できる。

以上から「中国人日本語学習者にとって、テイルの四つの用法の中で、母語干渉が原因で習得しにくいのは「結果残存」と「経験・記録」である」という仮説は正しいものと考えられる。

## 4. おわりに

本稿はテイルの四つの用法について、学習者の習得状況を明らかにした。

先行研究で述べられた、テイルに関する誤用とテイルの中国語との対応を検討したうえで、学習者にとっては結果残存と経験・記録が特に習得しにくい、という仮説を立てた。

その仮説を検証するために、アンケート調査を行った。調査対象は中国人日本語学習者 20 人であり、テイル用法が正しいかどうかのチェックは母語話者三人にやってもらった。最終の結果は以下のようにまとめられる。

中国人日本語学習者の結果をもとにした習得の難易度による分類：

- ①進行中一習得率が高い
- ②繰り返し一習得率は高くないが、正答率が高い
- ③結果残存と経験・記録一習得率が低い

以上のように、中国人日本語学習者は、母語干渉によって、テイル用法の結果残存と経験・記録がもっとも習得しにくい、ということが明らかになった。

## 参考文献

- 庵功雄（2001）「テイル形、テイタ形の意味の捉え方に関する一試案」『一橋大学留学生センター紀要』4, pp.75-94. 一橋大学
- 簡卉雯・中村渉（2010）「台湾人日本語学習者の「ている」の習得に関する縦断研究—「結果の状態」の用法を中心に—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』5, pp.83-92. 東北大学高等教育開発推進センター
- 許夏珮（2005）「日本語学習者によるアスペクトの習得」くろしお出版
- 金田一春彦（1954）「日本語動詞のテンスとアスペクト」『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 小山悟（2004）「日本語のテンス・アスペクトの習得における普遍性と個別性—母語の役割と影響を中心に—」『言語と教育』小山悟・大友可能子・野原美和子（編），pp.415-436. くろしお出版
- 菅谷奈津恵（2002）「第二言語としての日本語のアスペクト研究習得概観（第1章文法形式と機能の習得と使用）」『言語文化と日本語教育. 増刊特急号, 第二言語習得・教育の研究最前線』pp.70-86. お茶の水大学
- 菅谷有子（1997）「中国人日本語学習者のテンス・アスペクトの誤用—連体修飾節を中心に—」日本語教育学会秋季大会
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスⅡ』くろしお出版
- 藤井正（1976）「「動詞＋ている」の意味」『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 山口薫（2013）「外国人留学生の作文に現れるテンス・アスペクト形式の分析」『南山大学国際教育センター紀要』14, pp.25-39. 南山大学国際教育センター
- 吉川武時（1976）「現代日本語動詞のアスペクトの研究」『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房

（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程）